

2023年6月20日

独立行政法人 日本学生支援機構
全国キャリア教育・就職ガイダンス 事例紹介



山形大学
Yamagata University

「誰一人取り残さない」 多様な学生に対する 就職支援の取り組み事例

山形大学 キャリアサポートセンター
山本美奈子・松坂暢浩

yu-gssyushi@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学の概要



学長 玉手 英利 (たまた ひでとし)

人文社会科学部・地域教育文化学
部・理学部・医学部・工学部・
農学部の6学部と6つの大学院研究
科を備え、約9,000人の学生が
4キャンパスで勉学に励む、
東日本でも有数の規模を誇る
総合国立大学



本日の流れ（タイムスケジュール）

- 1) **社会背景と本学の取組みの経緯**
- 2) **官学連携による就職支援**
- 3) **取組みによる成果と課題**

本日の流れ（タイムスケジュール）

1) 社会背景と本学の取組みの経緯

2) 官学連携による就職支援

3) 取組みによる成果と課題



社会背景

高等教育機関における発達障害学生は7年前に比べ約8.7倍に急増

(日本学生支援機構: (以下JASSO) ,2022)

- ✓ 卒業率は68.8% (JASSO,2022)
- ✓ 卒業後の就職率36.0% (JASSO,2021)
- ✓ 進学でも就職でもない学生が50%以上



発達障害を診断の有無に関わらず広く捉え、大学など451校に調査を実施した結果、半数近くの大学が個別の就職支援を行っている (独立行政法人高齢・障害・求職者支援機構,2022)

本報告の多様な学生とは、発達障害の診断の有無に関わらず、何らかの困り感がある学生

本学の取組み経緯

- ・ 報告者らは、大学でキャリア教育（入口）と進路・就職支援（出口）を担っている
- ・ 発達障害学生の就職支援では、面接選考がなかなか通らず、卒業間近に相談に来るケースが多い
- ・ 自身の障害特性への受容に時間を要することが多い
- ・ **職業適性検査を受けると特化した強みに気づくものの、自己の能力を低く評価する傾向があり、自信を持って就職活動に臨めないことが多い**

<発達障害学生の卒業後の進路>

- ① 障害をクローズにし、一般枠で就職するが離職に至るケース
- ② 進路が決まらないまま、障害者職業センターにつなぐケース
- ③ 就労移行支援施設を経て、障害枠で採用されるケース

発達障害学生が潜在的に持つ特化した能力を社会で活かすためには、早期からの支援が必要と感じ、2019年度から官学連携の取組みを実施

本日の流れ（タイムスケジュール）

- 1) 社会背景と本学の取組みの経緯
- 2) 官学連携による就職支援**
- 3) 取組みによる成果と課題

多様な学生に対する就職支援について

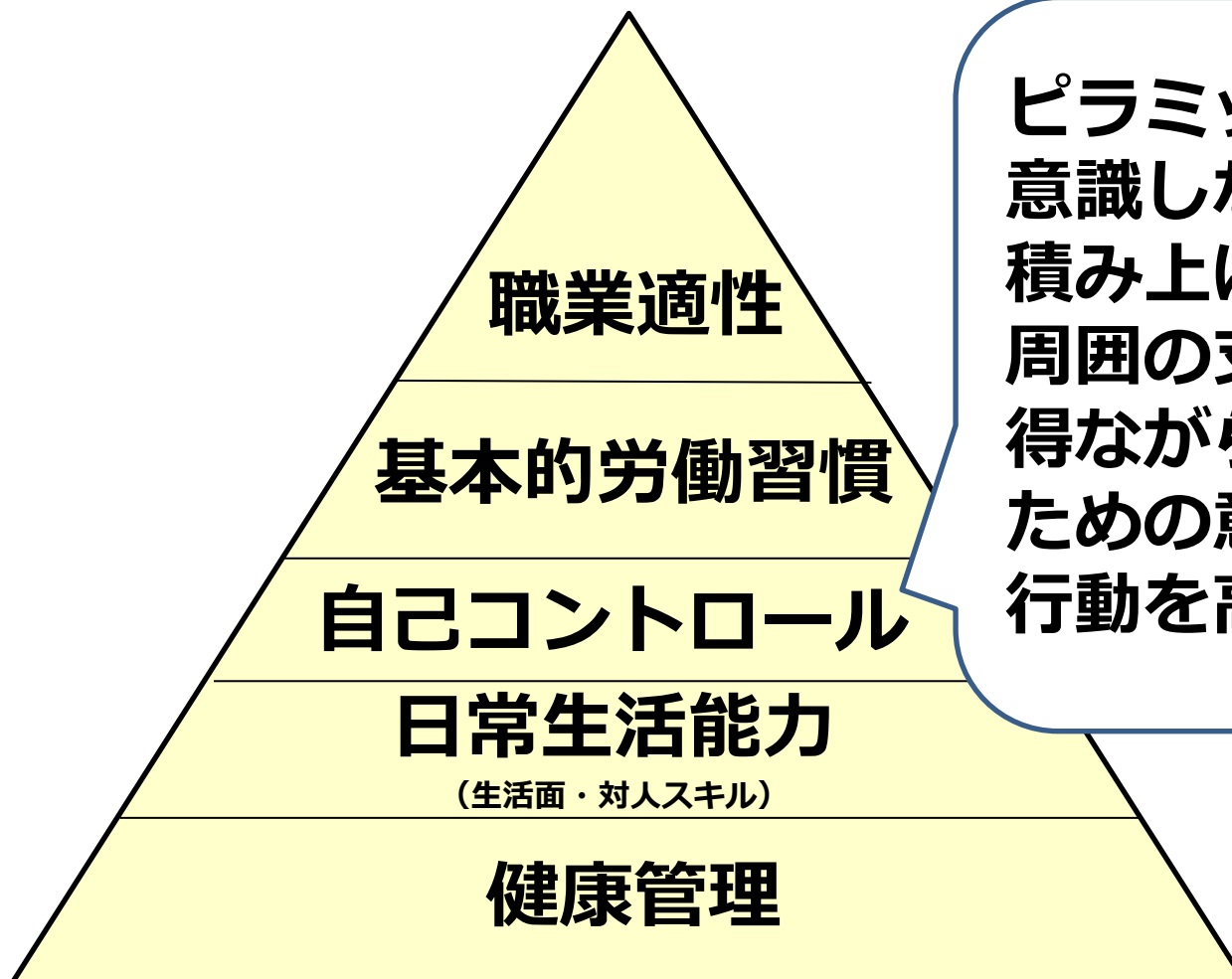
2019年～障害などの特性によって悩みを抱える学生を対象に、学内外の支援機関と連携し働くために必要な**職業準備性を高める**就職支援を実施してきた。

- 大学のキャリアサポートセンター、障がい学生支援センター、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構の山形障害者職業センター、ハロワークと連携して実施。



※ 「障がい」は法規に従って「障害」で統一、「障がい学生支援センター」などの名称は表記の通り

職業準備性について

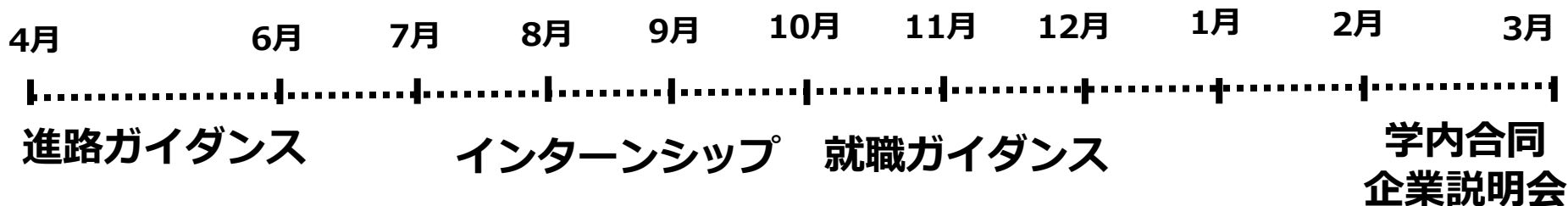


職業準備性ピラミッド

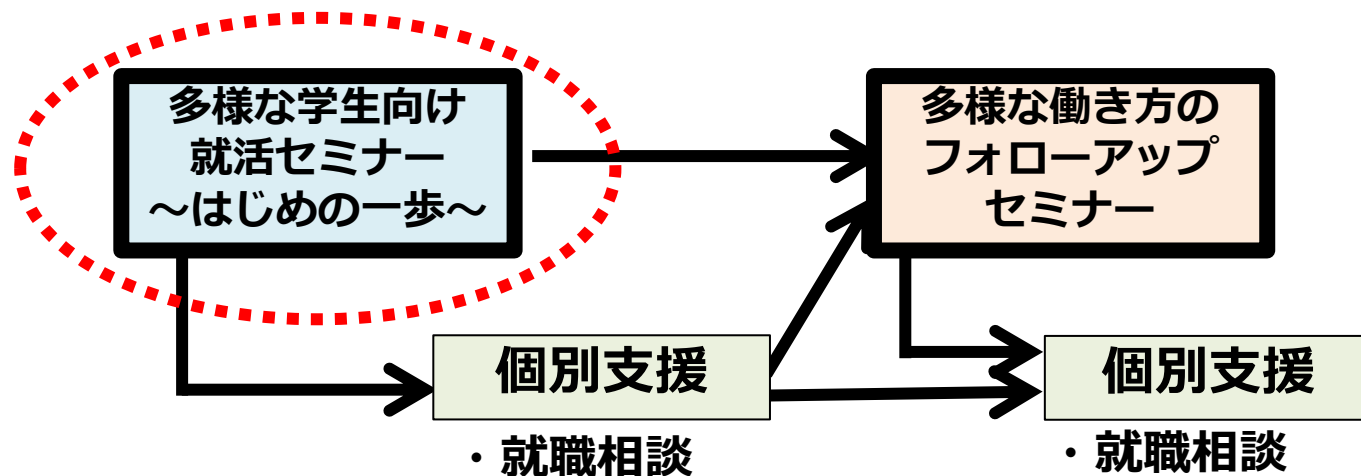
ピラミッドを
意識しながら、
積み上げ方式で、
周囲の支援を
得ながら、働く
ための意識・
行動を高める

多様な学生向け：3年生の就職支援の流れ

<本学の就職支援のスケジュール>



<多様な学生向けの就職支援>



講座の内容（オンライン）

講座名 : 就活セミナー～はじめの一步～

実施時期 : 夏休みが始まる1週目を目安、90分（オンライン）

フェーズ	内 容	所要時間	スタート時刻	時間 (終了時刻)
挨拶、全体説明	本講座の目的、チャットの活用方法など	0:10	13:30	13:40
就活セミナー ～はじめの 一步～	◎「社会人になる準備」は、できているだろうか？ →職業ピラミッドのチェック項目に沿って自己チェック	0:30	13:40	14:10
	◎なぜ働く（働きたい）のか？ ◎企業はどのような人材を求めているのだろうか？			
	チャットでの質問、感想の共有	0:10	14:10	14:20
	◎事例を通して学ぶ「就職活動がうまくいかない」 ◎障害者職業センター利用、診断書、精神障害者保健福祉手帳を取得。障害者枠で採用（ジョブコーチ活用）	0:15	14:25	14:40
質疑応答	チャットでの質問、感想の共有	0:10	14:40	14:50
学内外の支援 の紹介	◎障がい学生支援センターの利用案内 ◎キャリアサポートセンターの利用案内 ◎就活サポートセミナーの紹介 (山形障害者職業センター)	0:10	14:50	15:00

講座の対象者、募集方法と内容

●対象者：主に3年生（1、2年生も参加可能）

①キャリア教育の履修学生、②就職支援webシステム（求人検索NAVI：ジェイネット社）登録学生、③障がい学生支援センター利用学生、の約2,000名にメールで案内

（メール内容）

この講座は、次のような方を対象にしています。

例えば、コミュニケーションが上手くとれない、人との関係が築けない、空気が読めないと感じてしまう、生活リズムが上手につくれない、もの忘れが多く集中できない、レポートや履歴書などがうまく書けない（書くのに非常に時間がかかる）、色んなことに不安を感じ行動できない、ひとつのことにこだわりすぎてしまいきりかえができない など

今後、大学生活を送る上でどのようなことを意識すればよいのか、支援の活用方法や就職に向けた取組みについて、専門家の方にお越し頂き、具体的なお話を伺います。自分ごととして感じる方は、ぜひこの機会にお申し込みください。

参加者に対する事前アンケートの結果

不安や困りごとのについて

2020年実施 (n=46:複数回答)

項目	人数	割合
就職活動をどのように進めていけばよいかわからない	31	23.8%
いろいろな事に対し、不安になり行動できなくなる	27	20.8%
勉強に集中できない	24	18.5%
人間関係（親、友人、ゼミなど）	15	11.5%
朝、起きれないなど、生活リズムが不規則	15	11.5%
授業の課題であるレポートが書けない	6	4.6%
体調がすぐれない	5	3.8%
その他	5	3.8%
授業を欠席しがちで単位がとれない	2	1.5%

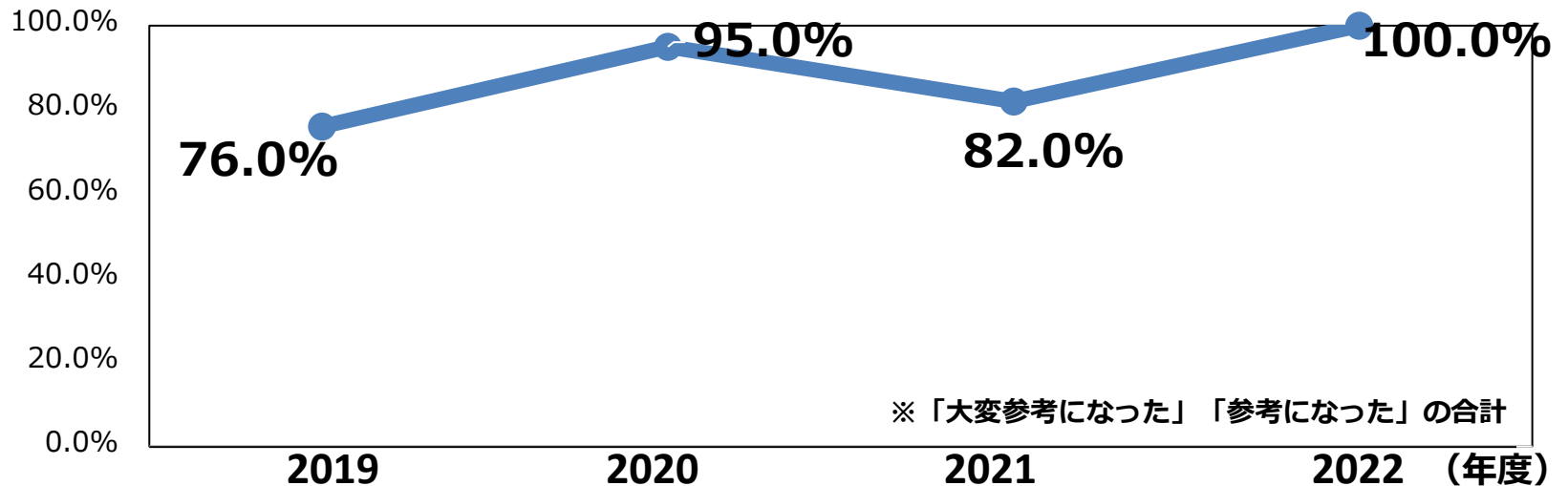
講座の参加学生数（2019年から4年間の推移）

参加学生	2019 (対面)	2020 (オンライン)	2021 (オンライン)	2022 (オンライン)
障がい学生支援 センターの利用学生	6	4	1	1
それ以外の学生	12	32	15	14
合計	18	38	16	15

大学1年生～大学4年生、大学院生と幅広い学年が参加

- ✓ 講座後に就職相談に来るケースが増加
- ✓ 2021年～多様な働き方のフォローアップセミナーの開催（1回/年→2回/年に増加）
- ✓ 学内外連携支援の強化（障害者職業センター、ハローワークなど）

講座の満足度（2019年から4年間の推移と満足度の理由）



参考になった理由の自由記述（2020年実施を一部抜粋）

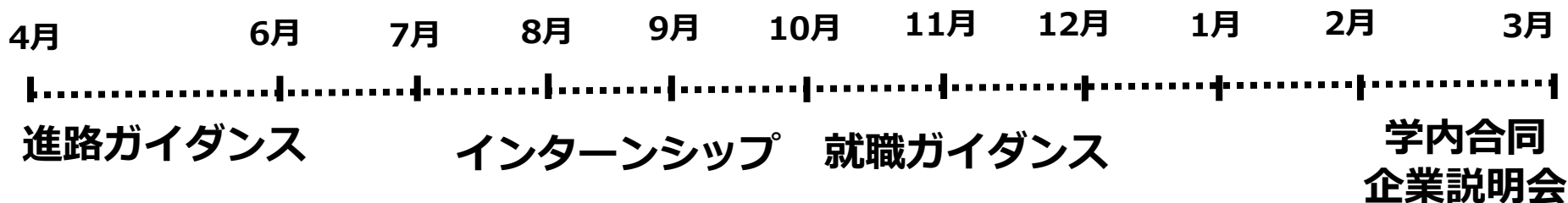
1	就活はどのようなものかあやふやだったが、今からやるべきことが何かを知ることができたから。
2	支援して欲しい際にどうすればいいのかわかった。今まで考えてはいたが思いつかなかった、バイトをすることのメリットがわかった。
3	よくある「就活セミナー」とは異なり、発達障害者の就職活動に照らした内容だった。
4	具体例があって、イメージが湧きやすかったし、ピラミッド型を使った説明が分かりやすかったから。
5	就職について困った時に相談できる場所を知ることができたため。

講座後の気づきや学びの記述と分類

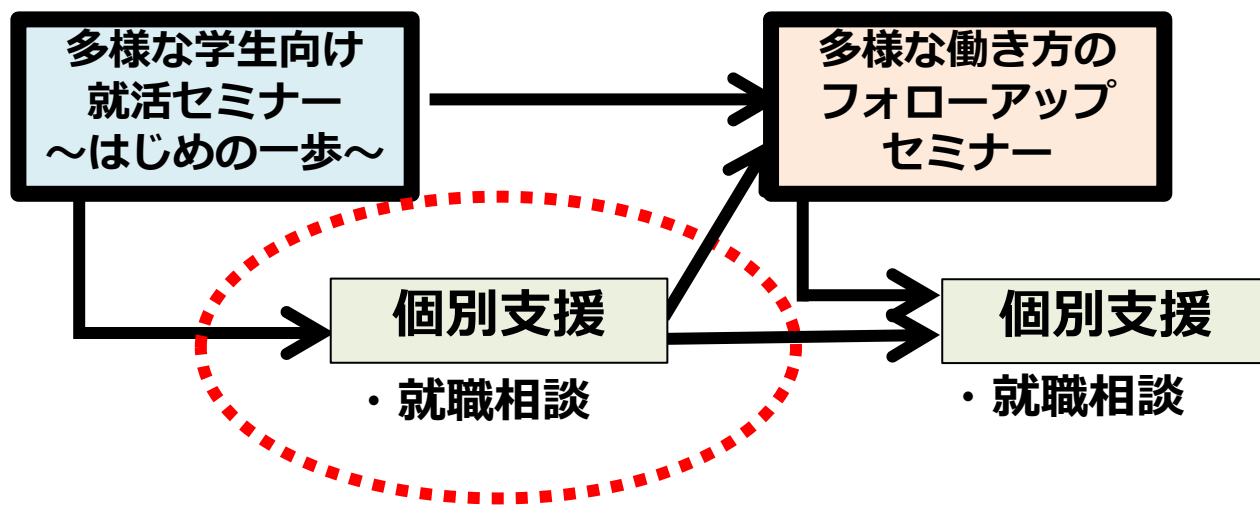
講座後の気づきや学びの記述（2020年実施を一部抜粋）	分類
<ul style="list-style-type: none">・就職するためには、アルバイトや大学などで力を入れて取り組んでいけば良いと思っていたが、日々の生活習慣を改善することも非常に大切なことなのだと学べた。・性格や基礎体力なども考慮することは分かっていたつもりだが、それが「働き続ける」ことの指標であるという重要な点であると学んだ。・就活のために大切なのは、何か特別なことをするというよりも、普段の大学生活の中で意識していくことで身につけていくものだということがわかりました。	職業準備性の気づき
<ul style="list-style-type: none">・就活を支えてくれる機関があるということ。・相談する場所が意外にも多くあること。・実際に障害者職業センターを利用するのは少し勇気がいる気がした。	相談機関
<ul style="list-style-type: none">・働くことに関して、適性だけがすべてではないこと。・職業選択の上で大切なのは適性だけではないということ。・就職は適性だけでなく、人それぞれの性質、例えば協調性や責任感なども大事	適性
<ul style="list-style-type: none">・健康管理などをきちんと行わないと自分の能力を活かせないこと。・体力も大事になってくるとわかった。・自分の内面的な部分だけでなく、自分の体調も考える必要があると気付くことができた。・ストレスの対処法やリラックスする方法が自分の中で確立していないこと。	日常生活管理・健康管理
<ul style="list-style-type: none">・自分にできることは何かを発見することが大切だということ。・自分に何が足りないのか、補うべきものを理解できた。	自己分析

多様な学生向け：3年生の就職支援の流れ

<本学の就職支援のスケジュール>



<多様な学生向けの就職支援>



講座後の就職相談の流れ

講座参加者の4～5名が就職相談に来訪

就職相談

診断あり

診断なし

障害者手帳の取得

障がいオープン

障害枠の支援

障がいクローズ

一般枠の就労支援

学生にあった企業を一緒に探す

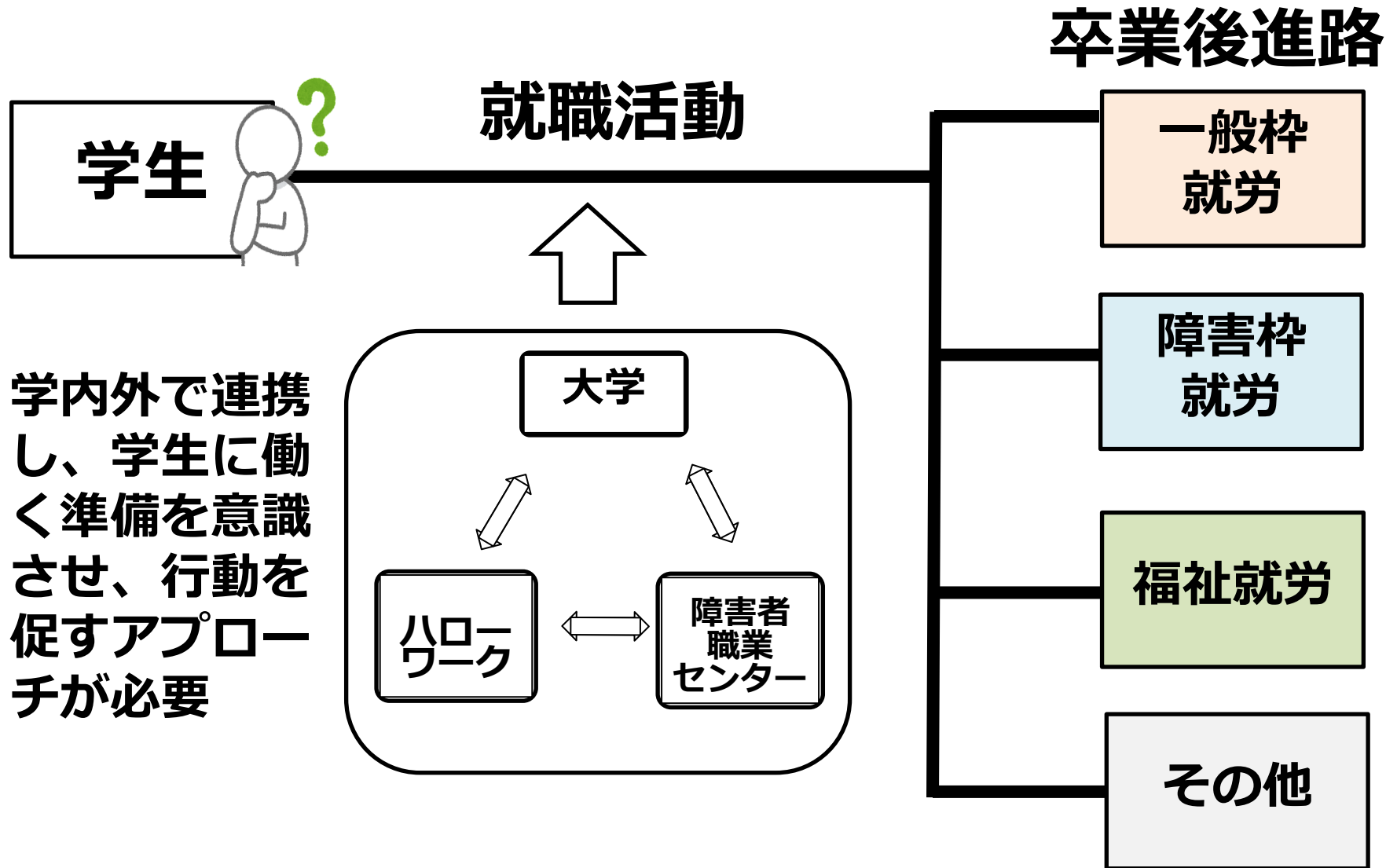
大学は、学生に障害者手帳の手続き、障害者雇用との違い、合理的配慮や制度などを説明したうえで、障害者職業センター、ハローワークなど外部機関と連携し支援を行う

本人の特性に応じ自分に合った職業選択ができるように継続支援。学内外の連携によって卒業後の就労支援につなげている。

本日の流れ（タイムスケジュール）

- 1) 社会背景と本学の取組みの経緯
- 2) 官学連携による就職支援
- 3) 取組みによる成果と課題**

多様な学生に対する就職支援体制の整理



多様な学生の就職支援で見えてきたこと

● 就職活動中の学生への働きかけ

- ✓モチベーションの低下、心身の不調などで**中断が多い**。
- ✓**大学側の働きかけが必要**。
- ✓モチベーションや心身アップ後の再開、支援を約束する。



● 障害をオープンにするか否か

- ✓**本人の意志を尊重**。最初から障害枠希望者は、少ない。
- ✓支援や制度の情報提供を行い、希望した場合は即対応する。
- ✓障害枠の希望者には、外部専門機関との連携が必須。
- ✓**一般枠就労希望の場合は、学生にあった企業を一緒に探す**。

● スケジュールの見通し

- ✓就職活動と授業の単位取得、卒業研究など同時進行の場合が多いため、**可視化し、優先順位を一緒に考える**。
- ✓オープンで働く場合「**職業準備支援※**」受講を勧める。



※ 「職業準備支援」とは

職業に関する社会生活技能などの向上を図る支援。最大で12週間（無料）

多様な学生に対する就職支援の成果①

●参加者の傾向

大学1年生～大学院生まで幅広い学年が参加
障がい学生支援センター利用の参加割合は少ない。

→働くことに不安のある多様な学生が一定数存在

●講座が「参考になった」は75%～100%

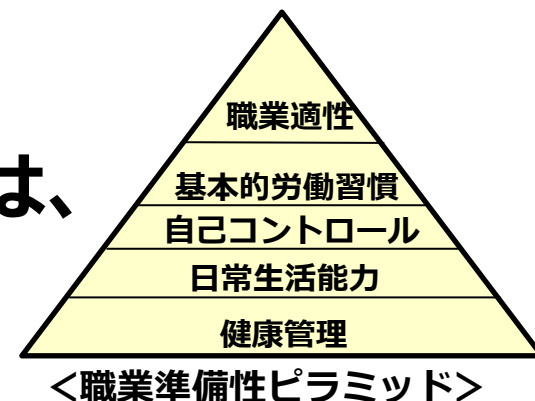
→「働くための準備をする上で重要な情報を得た」など学生ニーズを満たしている。

●学内外の相談機関の情報提供

→相談機関を知ることができたという記述の多さ。
夏休みにセミナーを実施し、就活生のフォローが強化。相談=孤立化予防の一助につながると考えられる。

多様な学生に対する就職支援の成果②

- **職業準備性ピラミッドを示すこと**
→ 早期から**職業準備ピラミッドを**
意識して学生生活を過ごすことは、
働く準備性を高める。



- **相談の増加と連携体制の強化**
→ 特性に応じ自分に合った働き方を
見つけられるように支援した結果、
多様な学生の就職相談のケースが増加。
学内外の連携によって体制が強化され、支援の充
実につながっている。

今後の課題

①働く準備性を高める支援の実施時期の検討

→大学生活に上手く適応できない学生は、対人関係やスケジュール管理、健康管理などの課題があり、入学後5月頃から顕著になる。そのため入学直後の早い段階からのキャリア支援が課題。

②多様な働き方の選択肢がもてる機会をつくる

→本支援において、障害者支援や制度の観点について説明しているが、障害者就労を推奨するものではない。
ダイバーシティの観点から、社会の動向や企業の動きについて学ぶ機会をつくる必要がある。

③追跡調査の実施

→オンラインに変更後、講座参加者全員を特定できていない。
進路先の追跡調査をしていくことが課題。

主な参考・引用文献

- 独立行政法人高齢・障害・求職者支援機構（2022）「発達障害のある学生に対する大学等と就労支援機関との連携による就労支援の現状と課題に関する調査研究」.No166
- 日本学生支援機構（2022）「令和元年度（2021年度）障害のある学生の修学支援に関する実態調査」
https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_shogai_syugaku/__icsFiles/afieldfile/2022/08/17/2021_houkoku_2.pdf（アクセス日2022年12月17日）
- 厚生労働省（2018）「発達障害者支援施策」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kai/go/shougai Shahukushi/hattatsu/index.html（アクセス日2020年9月15日）
- 山本美奈子・松坂暢浩・有海順子（2021）「多様な学生へのキャリア支援プログラムの検討－職業準備性に焦点をあてて－」『メンタルヘルスの社会学』（27）15-21頁.
- 山本美奈子・松坂暢浩・有海順子（2022）「職業準備性を高めるための発達障がい学生への支援—4年間の取組みの成果と課題」『第28回日本精神保健社会学会学術大会』